

# 平成 20 年度 情報モラル調査結果

<対象>

岐阜県内公立全小中高等学校・特別支援学校

<調査児童生徒数>

小学生 20,776 人 (5・6年生各校1クラス抽出)

中学生 17,152 人 (1・2・3年生各校1クラス抽出)

高校生 8,029 人 (1・2・3年生各校1クラス抽出)

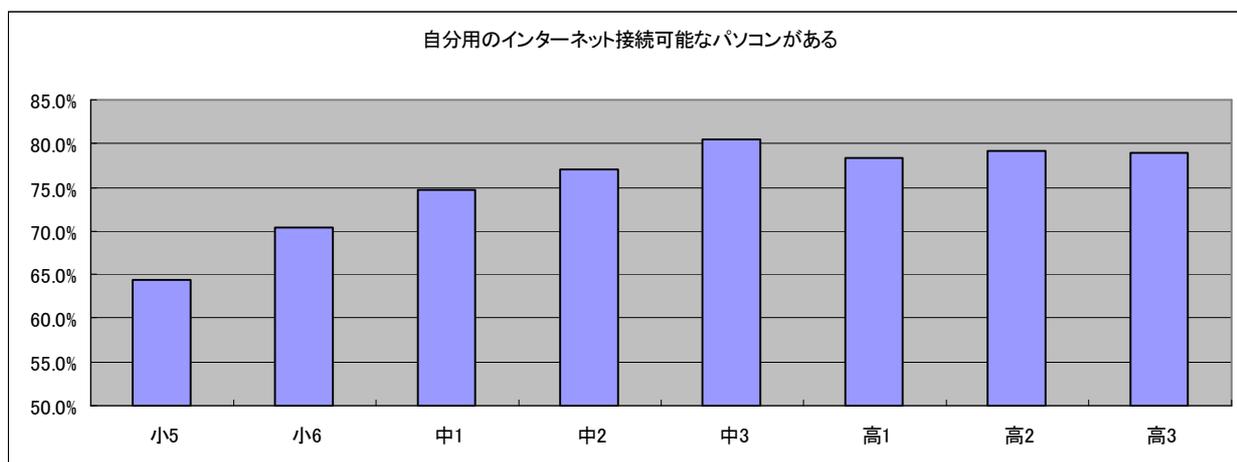
<実施期間>

平成20年11月～12月

## 設問 1

家に、インターネットに接続できて、あなたが使えるパソコンがありますか。

設問1	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①ある	64.4%	70.4%	74.8%	77.1%	80.5%	78.3%	79.2%	79.0%
②ない	35.6%	29.6%	25.2%	22.9%	19.5%	21.7%	20.8%	21.0%

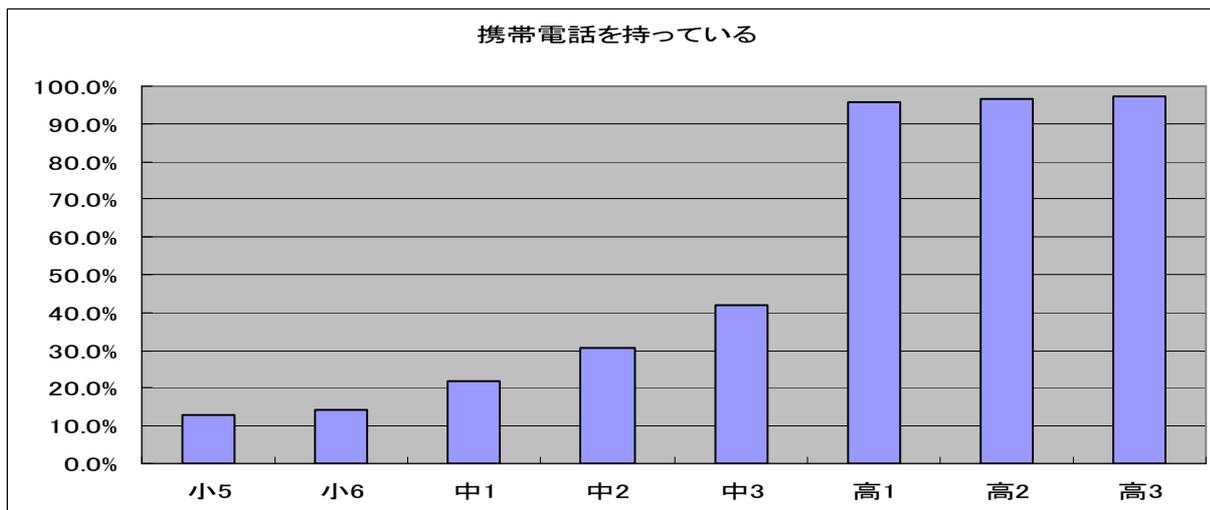


- Ⅰ 小学校高学年児童の自分専用パソコン所有率は、学年が進むにつれ増加しており、今年もその傾向に変わりはない。
- Ⅰ フィルタリングソフト等によって有害情報に触れさせないように保護者への啓発が必要。

## 設問 2

あなたは、自分の携帯電話を持っていますか。

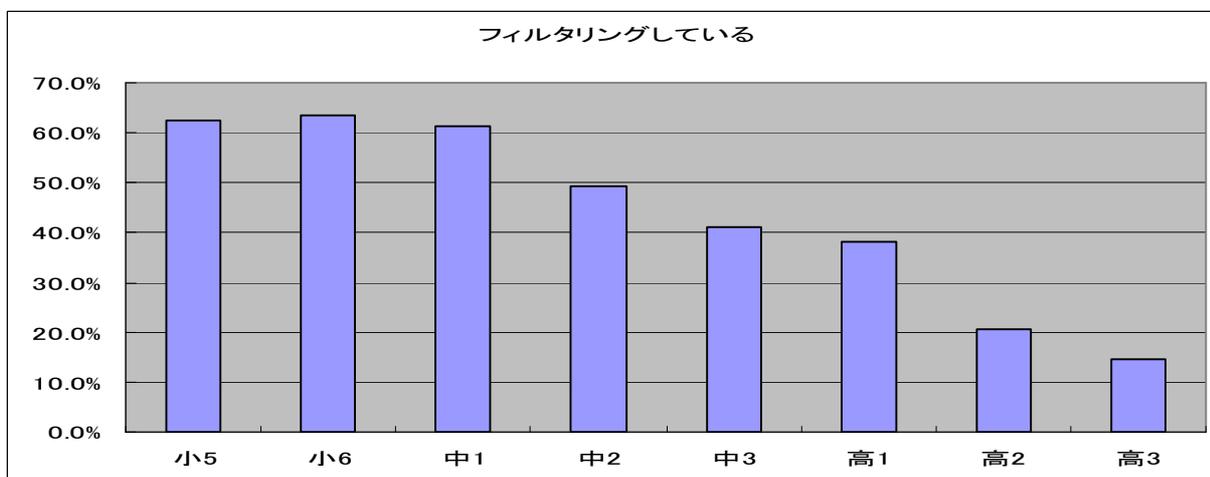
設問2	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①もっている	12.8%	14.3%	22.0%	30.5%	41.9%	96.0%	96.5%	97.3%
②もっていない	87.2%	85.7%	78.0%	69.5%	58.1%	4.0%	3.5%	2.7%



- Ⅰ 高校入学時に多くの生徒が購入していることがわかる。
- Ⅰ 中学時期に、徐々に所有率が増加している。この時期に携帯電話の必要性についての指導が重要である。

**設問3**  
 あなたの携帯電話は  
 フィルタリング（有害な  
 情報を見ることができ  
 ないようにすること）し  
 ていますか？

設問3	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①している	62.6%	63.4%	61.2%	49.4%	41.2%	38.1%	20.8%	14.5%
②していない	37.4%	36.6%	38.8%	50.6%	58.8%	61.9%	79.2%	85.5%

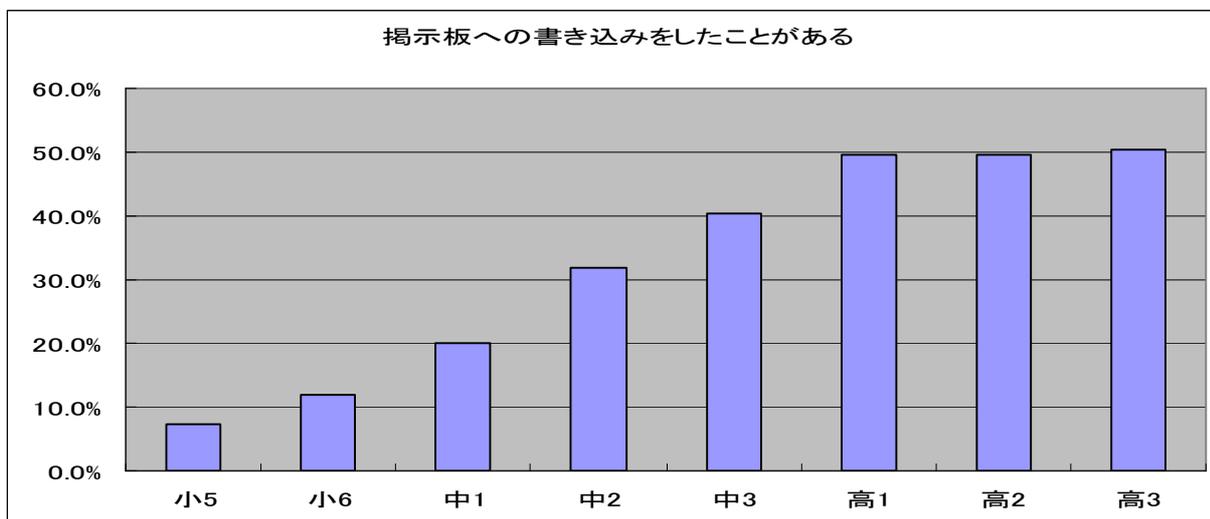


- Ⅰ 今年度より新規に調査した項目である。フィルタリングの原則義務化が行われるようになってから購入した率が高いと考えられる小学生でも、30%近い保護者がフィルタリング解除を行っていることが分かる。
- Ⅰ 中学生から高校生まで、学年が進むごとにフィルタリング率が低下している。聞き取り調査では、オンラインゲームやプロフ等が使用できなくなることが「フィルタリングを解除する理由」となっている。
- Ⅰ 児童生徒に対して、「フィルタリングをすることは、自分を守ることになる」ことを徹底して指導する必要がある。同時に、保護者に対してはフィルタリングの利用方法やその必要性を周知啓発していくことが重要である。

#### 設問 4

あなたは、インターネットや携帯電話の掲示板に書き込みをしたことがありますか。

設問4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①ある	7.3%	11.8%	20.0%	31.8%	40.4%	49.6%	49.5%	50.5%
②ない	92.7%	88.2%	80.0%	68.2%	59.6%	50.4%	50.5%	49.5%

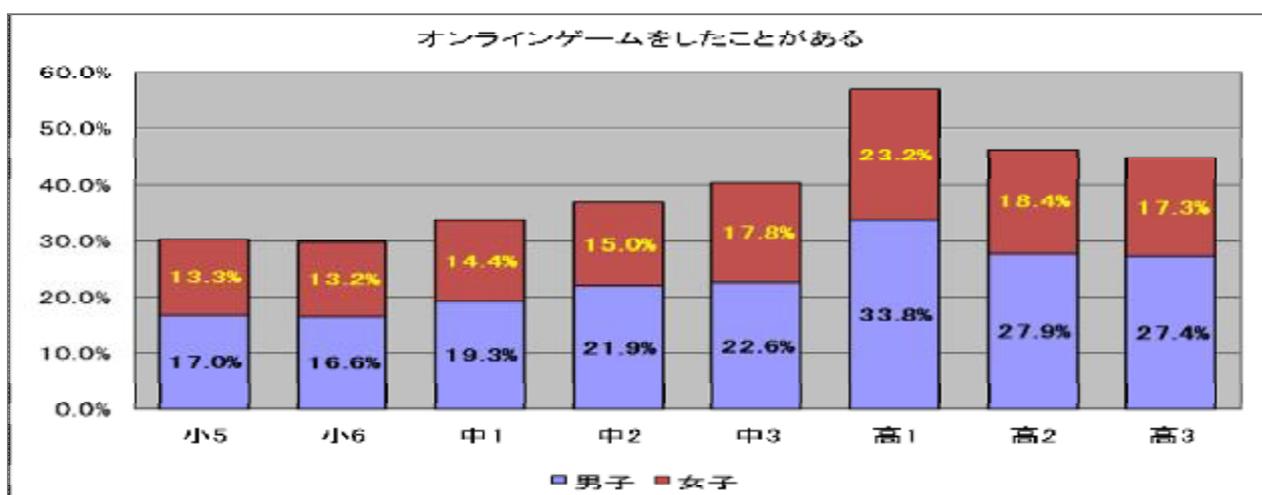


- Ⅰ 6年生の書き込み経験が増えてきている。この時期に、個人情報の重要性や、相手意識を持ったメール等の指導が必要である。
- Ⅰ 中学生時期に掲示板の利用が進んでいることが分かる。一方で、高校では、50%程度から利用が伸びないことから、利用するものとししないものの2極化が進んでいると思われる。

#### 設問 5

あなたは、オンラインゲームをしたことがありますか。

設問5	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①ある	30.2%	29.8%	33.7%	36.9%	40.4%	57.0%	46.3%	44.7%
②ない	69.8%	70.2%	66.3%	63.1%	59.6%	43.0%	53.7%	55.3%

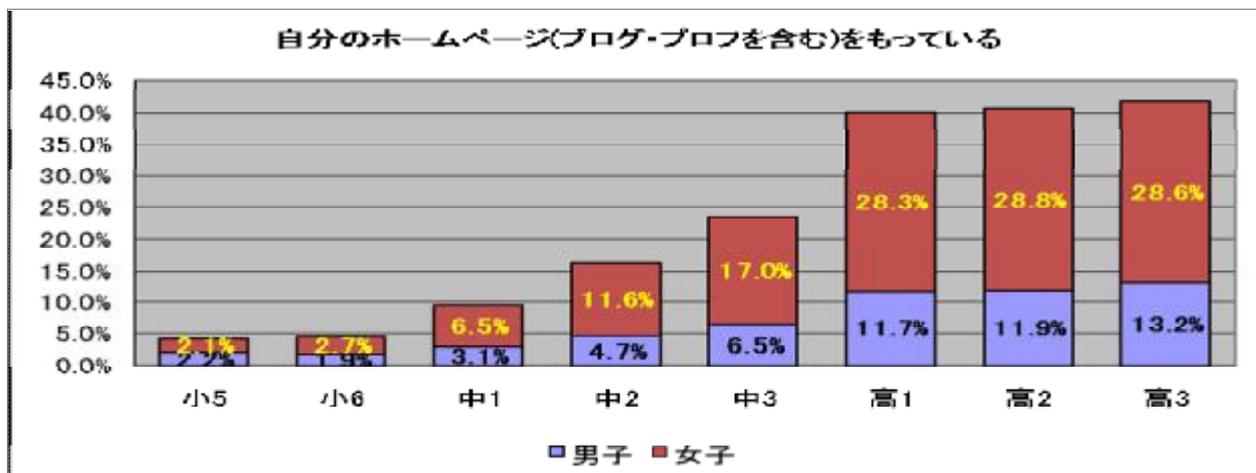


- Ⅰ 今年度より新規に調査した項目である。男子の利用が多いのが特徴。他者とネットにつながりながらゲームをするものが多い。ゲームマナーの交換などのトラブルがある。
- Ⅰ 「見知らぬ誰かと遊んでいること」を自覚させる指導が必要がある。

### 設問 6

あなたは、携帯電話やパソコンから見る事ができる自分のホームページ(ブログ・プロフを含む)を持っていますか。

設問6	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①ある	4.3%	4.6%	9.5%	16.3%	23.5%	40.1%	40.7%	41.8%
②ない	95.7%	95.4%	90.5%	83.7%	76.5%	59.9%	59.3%	58.2%

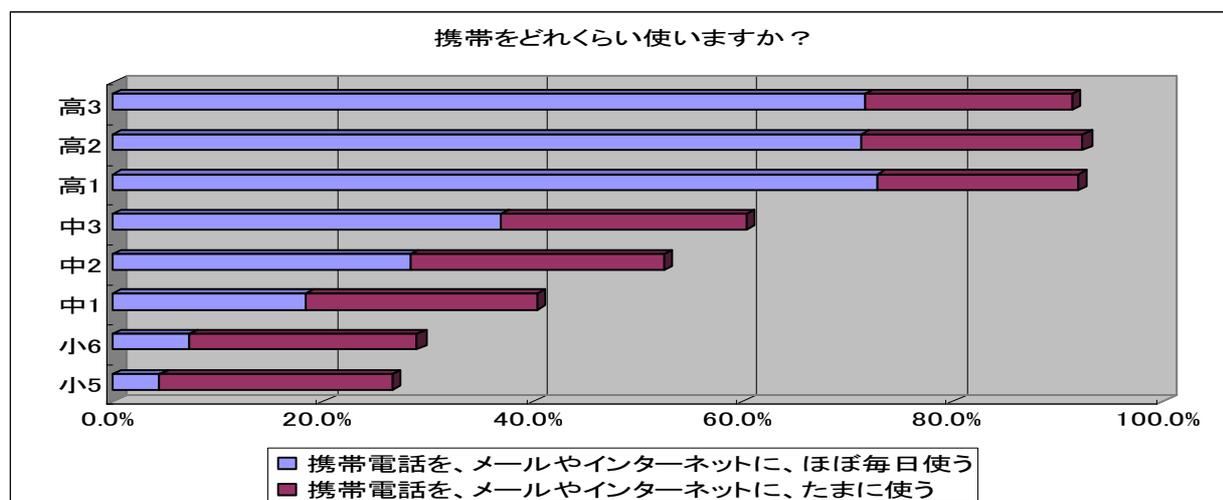


- I 女子の利用が最も顕著に表れている。住所や写真と言った個人を特定する情報を公開することの恐ろしさについて指導する必要がある。中高生の文化として定着してきている。いじめのツールとして使用されることもある。
- I 援助交際やつきまといのきっかけになっている事例など、危険性を具体的に示し指導する必要がある。

### 設問 7

ホームページを見たり、メールをしたり、掲示板を使ったり、オンラインゲームをしたりするために、携帯電話をどれくらい使いますか。

設問7	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①ほぼ毎日	4.5%	7.3%	18.3%	28.4%	37.0%	72.7%	71.3%	71.6%
②たまに	22.1%	21.7%	22.1%	24.0%	23.4%	19.2%	21.2%	19.8%

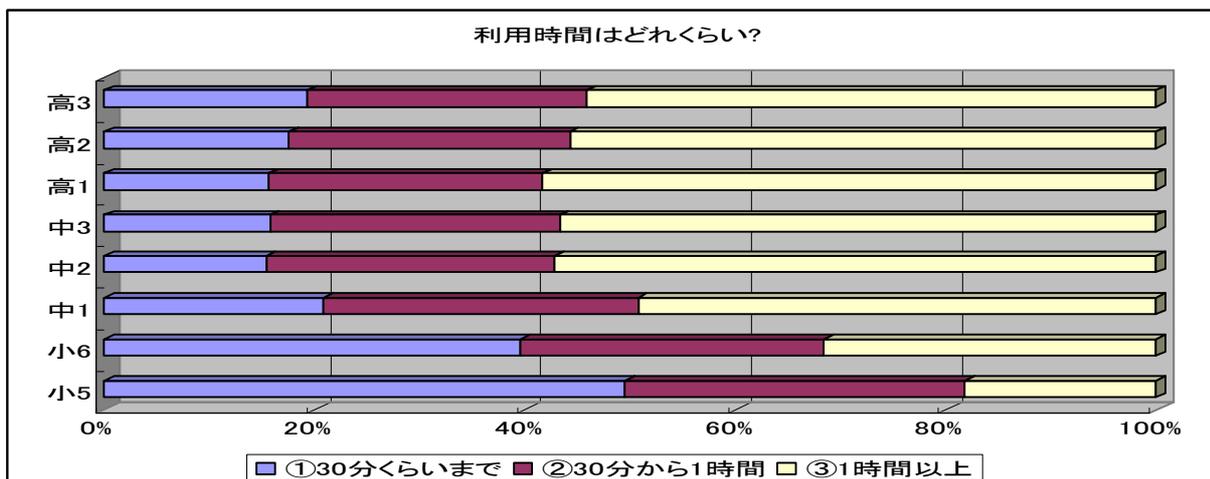


- I 携帯への依存が始まる時期が、中1であることがうかがえる。この時期に、友人間のメール等が増えることがその要因と考えられる。使い方の指導等が重要な時期であると言える。

### 設問 8

7の質問で、「①」（ほぼ毎日）と答えた人におたずねします。使う時間は1日当たりどれくらいですか。

設問8	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
① 30分くらいまで	49.6%	39.6%	20.9%	15.4%	15.8%	15.7%	17.6%	19.4%
②30分から1時間	32.3%	28.9%	29.9%	27.4%	27.5%	26.0%	26.7%	26.6%
③1時間以上	18.2%	31.6%	49.2%	57.2%	56.7%	58.3%	55.7%	54.1%

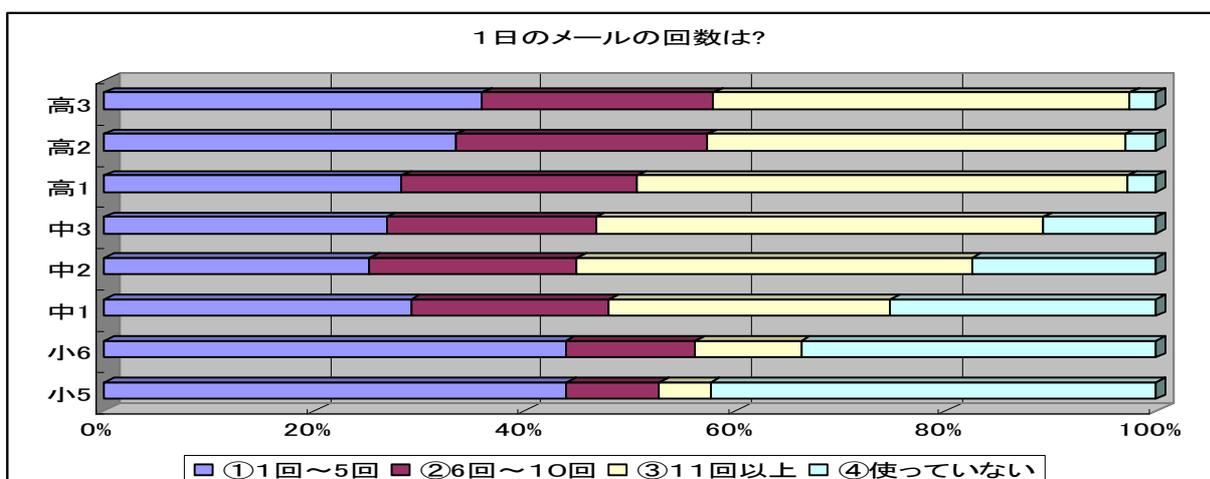


- 利用時間は、小学生の内は少ない傾向が見られるが、中学生の時期が最も多くなっている様子が見られる。
- 家庭での約束作りや、保護者による指導が重要な時期であると言える。

### 設問 9

7の質問で「①」または「②」と答えた人におたずねします。電子メールは1日に何回くらい使いますか。

設問9	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①1回～5回	43.9%	43.9%	29.2%	25.3%	26.9%	28.3%	33.5%	35.9%
②6回～10回	8.9%	12.3%	18.8%	19.6%	19.9%	22.3%	23.8%	22.0%
③11回以上	4.8%	10.1%	26.8%	37.6%	42.5%	46.6%	39.7%	39.5%
④使っていない	42.3%	33.8%	25.2%	17.5%	10.7%	2.7%	3.0%	2.6%



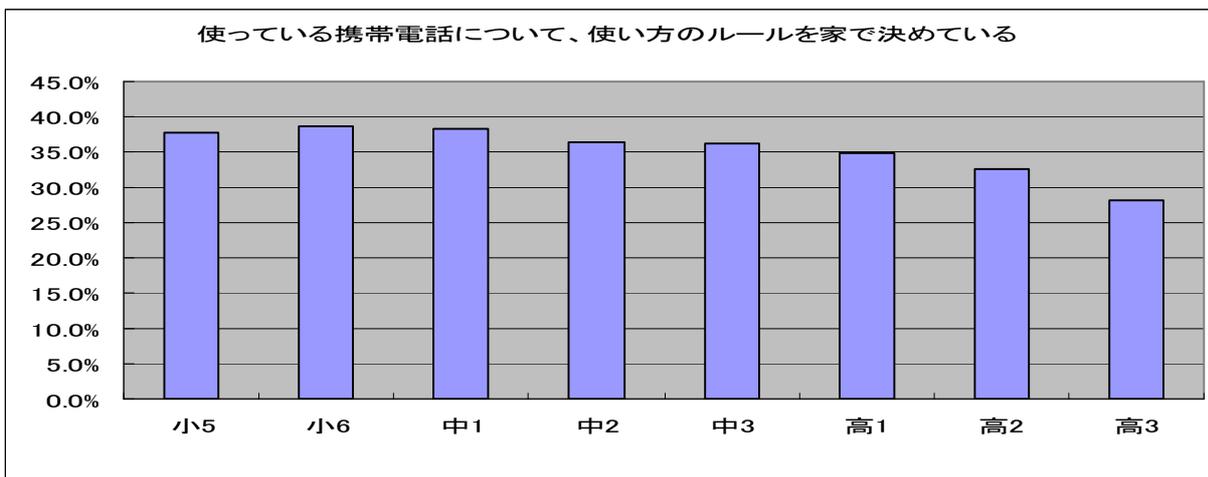
- メールの利用が急激に伸びるのが中学生の時期であると言える。
- 中2を底にメールの回数が少ない率が徐々に増加していく一方で、11回以上の率はほぼ変化をしないまま学年が進んでいる。これは、「メール依存のライフスタイル」が定着している率を示すと考えられる。

### 設問 1 0

あなたの家では、子どもが使う携帯電話（兄弟姉妹のものも含む）の利用のしかたは決められていますか。

設問10	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
① 決められている	37.8%	38.7%	38.2%	36.4%	36.2%	34.8%	32.6%	28.1%
② 決められていない	62.2%	61.3%	61.8%	63.6%	63.8%	65.2%	67.4%	71.9%

使っている携帯電話について、使い方のルールを家で決めている

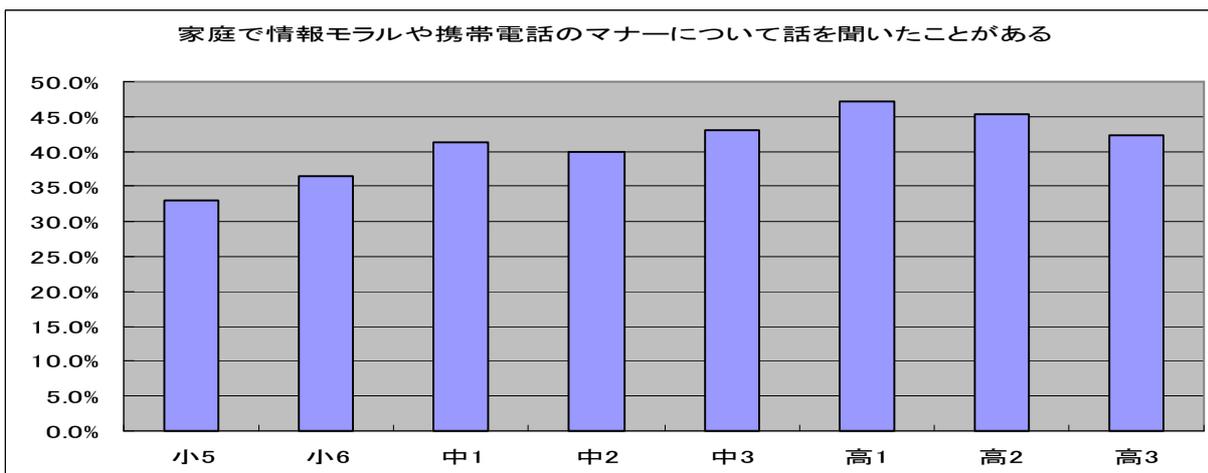


### 設問 1 1

あなたは、家庭で情報モラルや携帯電話のマナーについての話を聞いたことがありますか。

設問11	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①ある	33.0%	36.5%	41.2%	39.9%	43.1%	47.2%	45.4%	42.3%
②ない	67.0%	63.5%	58.8%	60.1%	56.9%	52.8%	54.6%	57.7%

家庭で情報モラルや携帯電話のマナーについて話を聞いたことがある

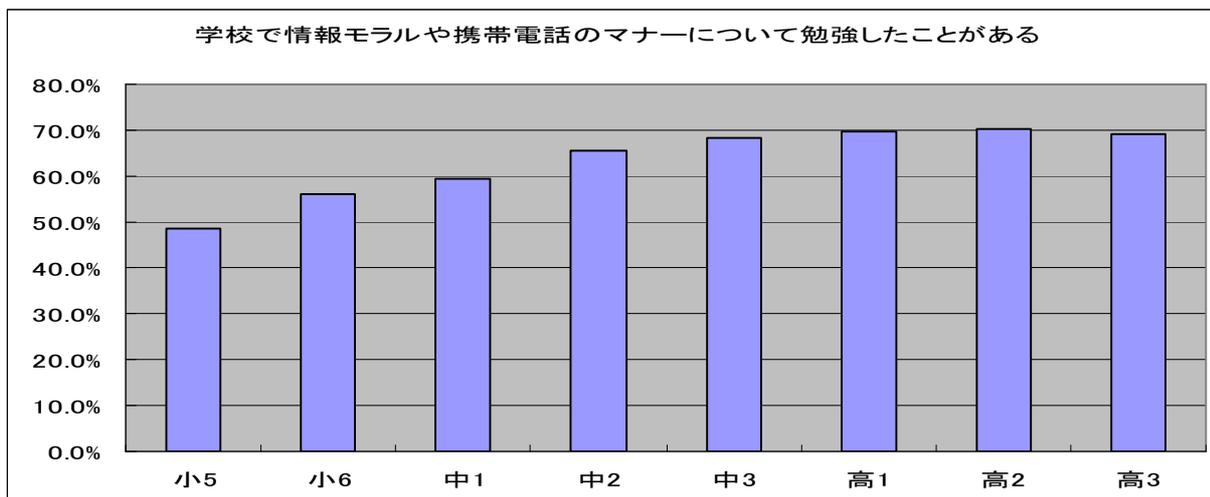


- Ⅰ 家庭の情報モラル意識は、わずかずつではあるが増加している。今後は、保護者に対しても買い与えた当事者としての自覚を促し、学校と連携して指導していくようにする必要がある。
- Ⅰ 家庭ごとの利用の決まりを作るなど、具体的な取り組みが必要である。

## 設問 1 2

あなたは、学校の授業（朝の会、帰りの会を含む）で、情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことがありますか。

設問12	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①ある	48.5%	56.1%	59.4%	65.7%	68.3%	69.7%	70.2%	69.1%
②ない	51.5%	43.9%	40.6%	34.3%	31.7%	30.3%	29.8%	30.9%

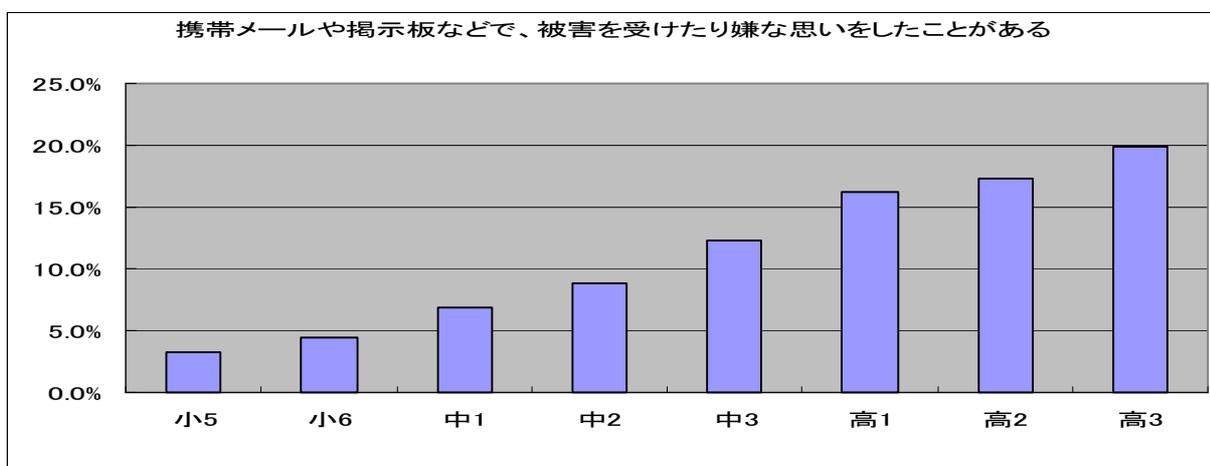


- Ⅰ 中学校の6割以上、高等学校の約7割で、生徒の意識に残る情報モラル指導がなされている。
- Ⅰ 小学校における情報モラル指導がやや低い値を示している。禁止や注意喚起の指導だけでなく、児童に携帯等の必要性を考えさせたり、危険性を感じさせたりする具体的な学習を進める必要がある。

## 設問 1 3

あなたは、インターネットや携帯電話のメールや掲示板などで被害を受けたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。（被害とは、悪口やいやがらせ、身に覚えのない請求、ネット詐欺、コンピュータのウィルス感染など）

設問13	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①ある	3.2%	4.4%	6.9%	8.9%	12.3%	16.3%	17.3%	19.8%
②ない	96.8%	95.6%	93.1%	91.1%	87.7%	83.7%	82.7%	80.2%

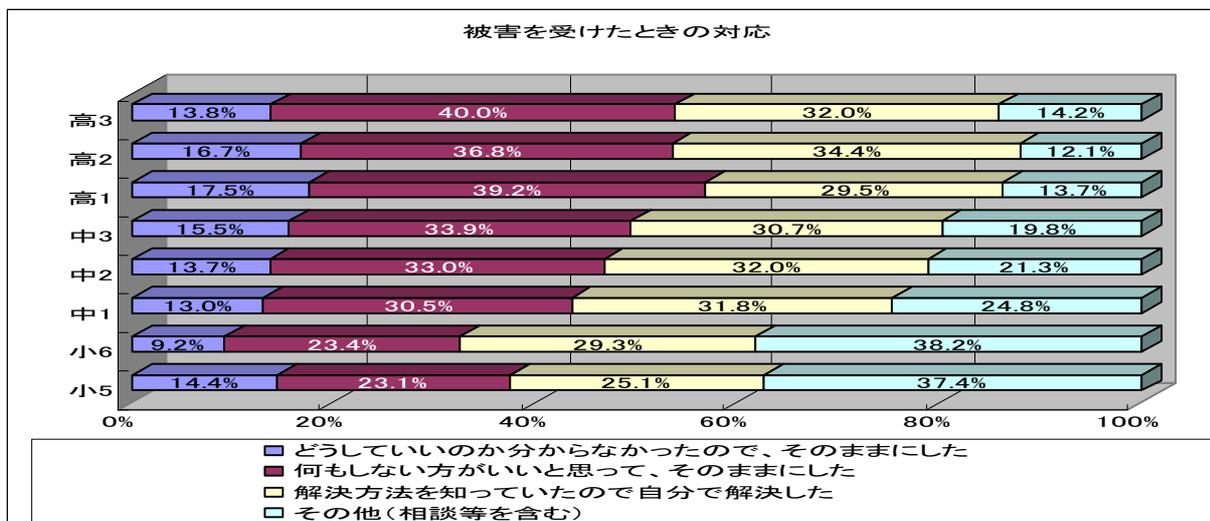


- Ⅰ 被害経験は、利用の広がりによって増加している。
- Ⅰ 誹謗中傷、架空請求等の被害の低年齢化が進んでいる。相談体制の確立が重要である。

### 設問 1 4

被害を受けたとき、  
どうしましたか。

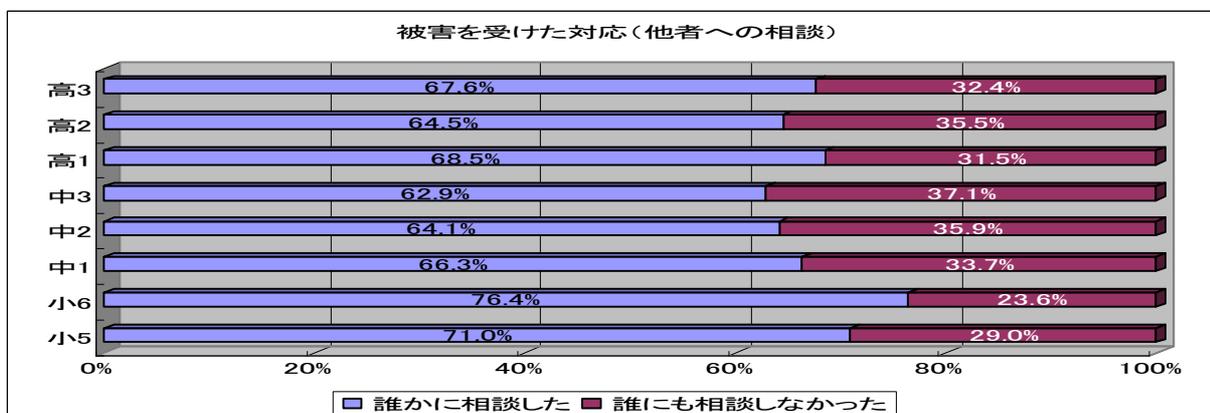
設問14	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
① 分からないので、 そのままにした	14.4%	9.2%	13.0%	13.7%	15.5%	17.5%	16.7%	13.8%
②何もしない方が いいと思って、 そのままにした	23.1%	23.4%	30.5%	33.0%	33.9%	39.2%	36.8%	40.0%
③ 自分で解決した	25.1%	29.3%	31.8%	32.0%	30.7%	29.5%	34.4%	32.0%
④その他 (相談等を含む)	37.4%	38.2%	24.8%	21.3%	19.8%	13.7%	12.1%	14.2%



### 設問 1 5—1

被害を受けたとき、誰かに  
相談しましたか。

設問15-1	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①相談した	71.0%	76.4%	66.3%	64.1%	62.9%	68.5%	64.5%	67.6%
②相談 しなかった	29.0%	23.6%	33.7%	35.9%	37.1%	31.5%	35.5%	32.4%



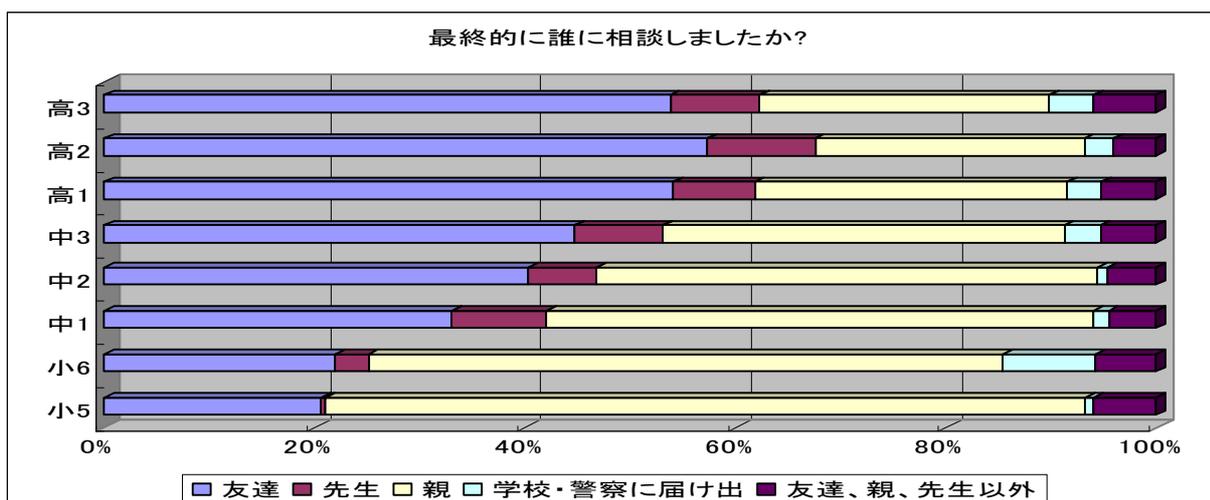
Ⅰ 問題に対して自力で解決する割合が増加している。しかし、被害の多様化と深刻化の実態をふまえ、他者への相談が重要であることを指導していく必要がある。

### 設問 15-2

誰に相談しましたか？ (いろいろな人に相談した場合は、最終的に相談した人を答えてください)

(表の値は、15-1 の内訳を示す)

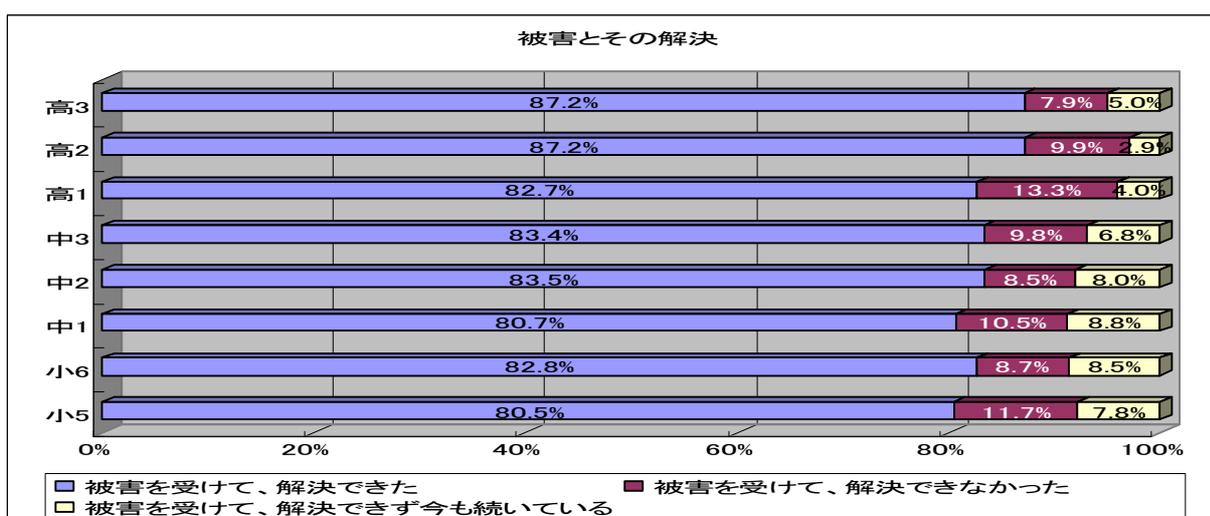
設問15-2	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①友達	14.7%	16.8%	21.9%	25.9%	28.1%	37.0%	37.0%	36.4%
②先生	0.3%	2.4%	6.0%	4.2%	5.3%	5.3%	6.6%	5.7%
③親	51.2%	46.1%	34.4%	30.5%	24.0%	20.4%	16.5%	18.6%
④学校・警察に届け出	0.6%	6.8%	1.0%	0.6%	2.2%	2.2%	1.8%	2.9%
⑤友達、親、先生以外	4.2%	4.4%	3.0%	3.0%	3.3%	3.5%	2.6%	4.0%



### 設問 16

解決できましたか。

設問16	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①解決できた	80.5%	82.8%	80.7%	83.5%	83.4%	82.7%	87.2%	87.2%
②解決できなかった	11.7%	8.7%	10.5%	8.5%	9.8%	13.3%	9.9%	7.9%
③解決できず今も続いている	7.8%	8.5%	8.8%	8.0%	6.8%	4.0%	2.9%	5.0%



- I 被害が深刻化している様子が学校・警察等への届け出の増加として現れている。
- I 被害を継続させないために日頃の相談活動を充実することはもちろん、情報モラルに関するアンケートや学習会を定期的に行うことを通して児童・生徒の実態の把握に努力する必要がある。また、被害やトラブルにあったら、身近な信頼できる大人に相談することを徹底していく必要がある。